

学校推薦型選抜〔公募制〕【小論文】問題

〈解説〉 および 〈図〉を参照して【問題】に回答してください。

〈解説〉 以下の文章は、国際化が進む日本および北海道におけるインバウンド(注)に関する記述です。

日本政府観光局(JNTO)が発表した2024年4月の訪日外客数は、3,042,900人(推計)となり、(3月および4月)2か月連続で300万人を突破した。なお、2024年1月から4月までの累計も1,000万人を超え、訪日外国人がコロナ禍前の水準に回復していることがうかがえる。インバウンド需要が回復基調・拡大基調で推移していくなか、最近年の圏域別にみた北海道観光を概観すると以下である。

○ 圏域別訪日外国人来道者の国・地域別の割合(図1)

アジア圏からの来道者が最も多く7割以上を占める。全道全体でみた場合、国・地域別では、韓国が最も多く、次いで台湾、香港の順である。各圏域ともに、アジアの国々・地域の来道者が過半数以上を占める点では同じ傾向にあるが、圏域別でみた場合、その国・地域の内訳はかなり異なる。

○ 圏域別の訪日外国人宿泊延べ数(図2)

全道の約7割が「道央圏域」に集中しており地域間で大きな偏在が見られる。その背景には、出入国者数の9割以上が新千歳空港を利用していること、道内の宿泊施設数の約4割が道央圏に集中していることがあげられる(引用:観光ビジョン推進北海道ブロック戦略会議(2024)『観光ビジョン推進北海道ブロック戦略会議で掲げた課題に係る数値目標の進捗状況について(令和6年3月14日)』)。

なお、北海道のみならず日本国内では、2024年に入り記録的な円安を背景に、訪日外国人の増加を起因としたオーバーツーリズムや宿泊業界における人手不足などの課題もより顕著となっている。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」へと移行するなどあらたな局面のなか、地域活性化対策のひとつとして注目が高まる観光振興策の強化は、観光立県の北海道にとって喫緊の課題である。

注) 「インバウンド」とは〈解説〉および〈図〉の訪日外客、訪日外国人をさす。

【問題】 〈解説〉および〈図〉をふまえ以下の問いに回答してください。

北海道が地域をあげて持続的に取り組むべき分野の一つに観光があります。

国際化が急速に進展するなか、幅広い領域での方策が求められています。

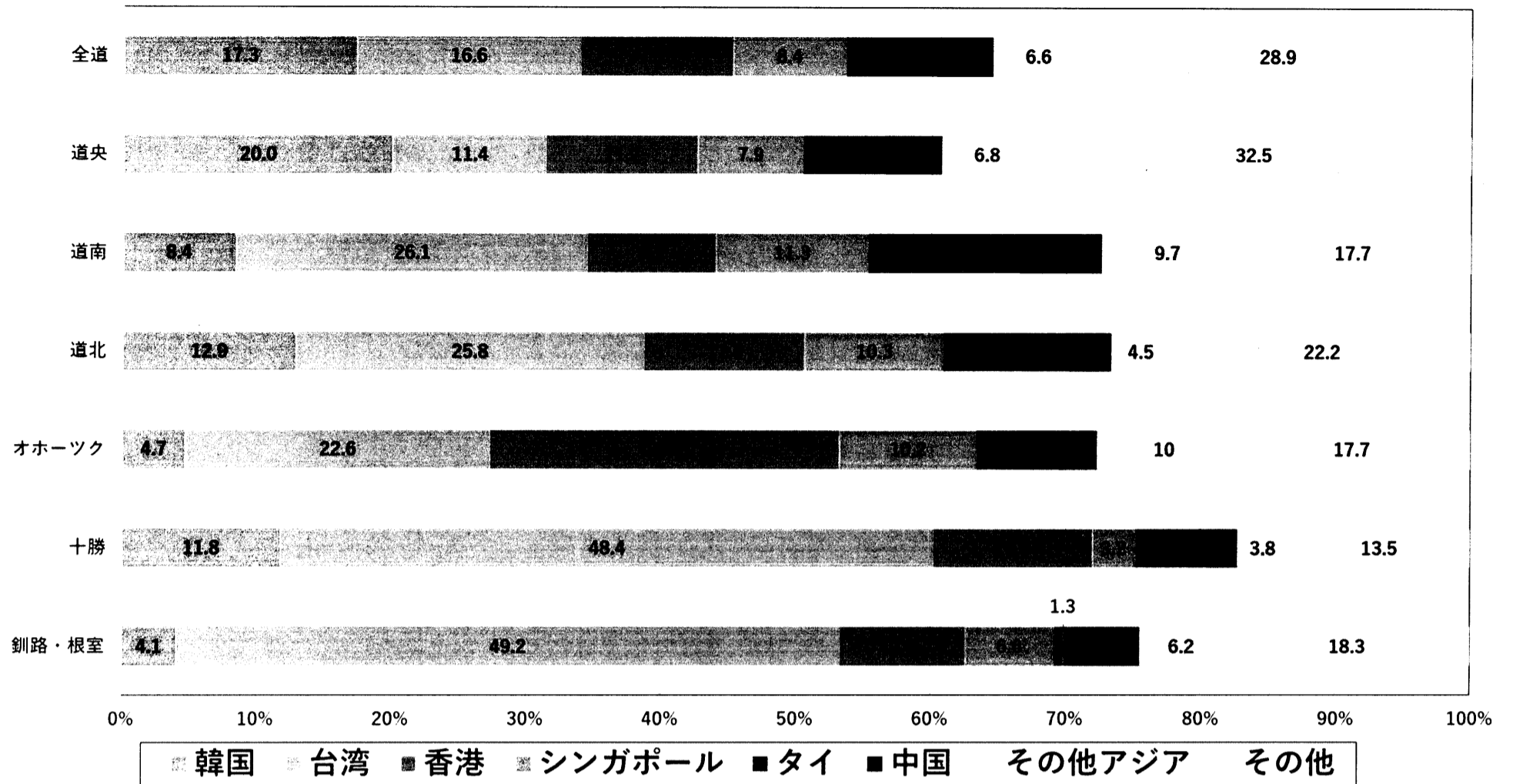
そこで、北海道における「地域経済」に与える影響を考慮し、インバウンド需要の安定的確保およびインバウンドの分散への取り組みについて、具体的なアイデアを 800 字以内で提案してください。

なお、記述にあたり、〈図〉に記載してある具体的な圏域名や数値などを必ず引用してください。

また、提案に際し、小論文の内容を的確に示す「表題」を解答用紙の所定の欄に記述してください。

〈 図 〉 以下の図は、北海道における圏域別の観光に関するグラフです。

図1 圏域別訪日外国人来道者の国・地域別の割合



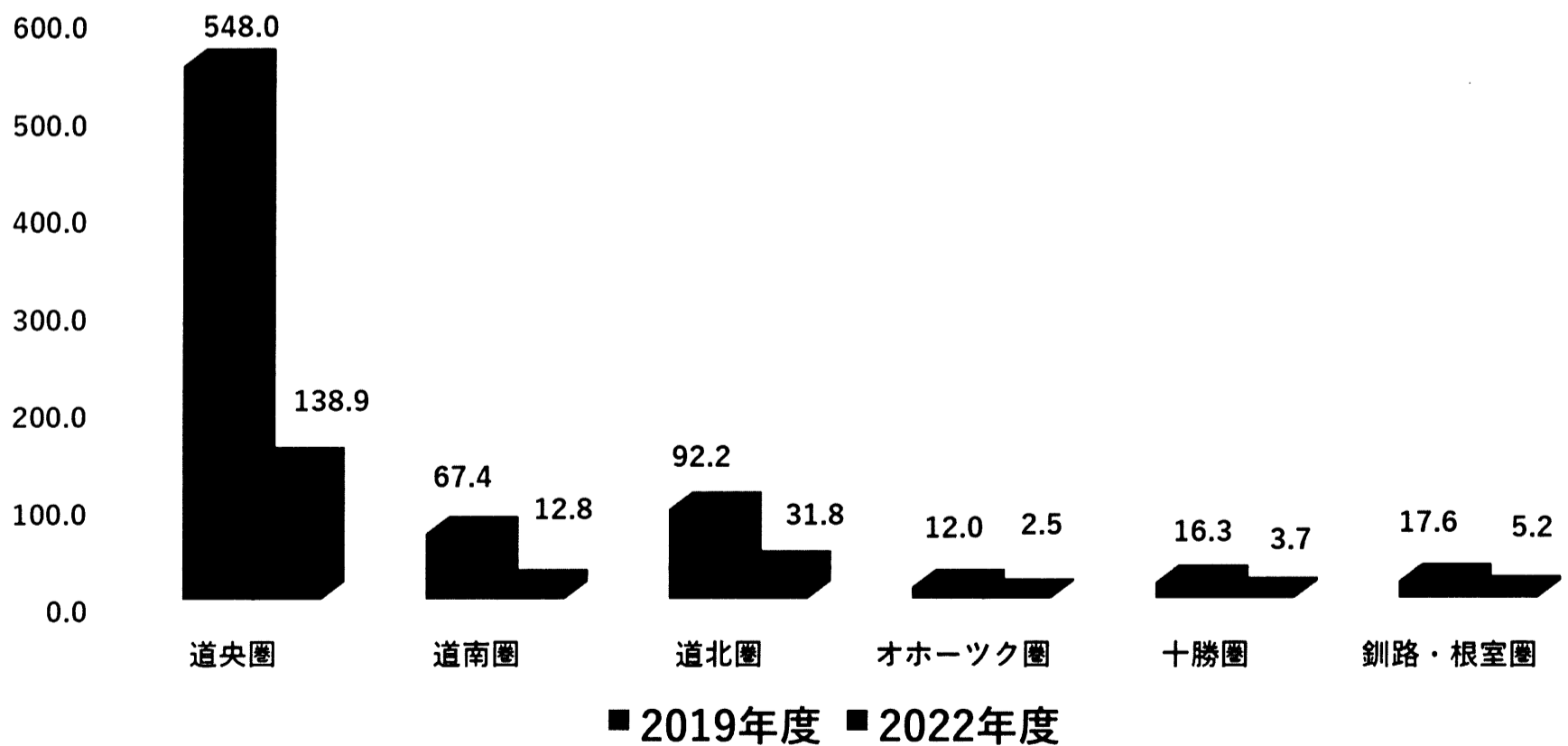
注1) 北海道運輸局観光部国際観光課 (2024) 『北海道の観光基礎データ (令和6年5月30日)』を参考に作成。

注2) 数値は2022年度の宿泊延べ数の割合である。

注3) 「その他アジア」とは、東アジア (韓国、台湾、香港) 以外のアジア地域をさす。「その他」とは、アジア地域以外の北米、南米、オセアニア、ヨーロッパなどの地域をさす。

図2 圏域別訪日外国人宿泊延べ数

万人



注1) 北海道運輸局観光部国際観光課 (2024) 『北海道の観光基礎データ (令和6年5月30日)』を参考に作成。

注2) 道央圏とは、石狩振興局、空知総合振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局の各行政区域を包含するエリアである。道南圏とは、渡島総合振興局、檜山振興局の各行政区域を包含するエリアである。道北圏とは、上川総合振興局、宗谷総合振興局、留萌振興局の各行政区域を包含するエリアである。オホーツク圏とは、オホーツク総合振興局の行政区域エリアである。十勝圏とは、十勝総合振興局の行政区域エリアである。釧路・根室圏とは、釧路総合振興局、根室振興局の各行政区域を包含するエリアである。